



始まりは3人の医師 2004年の秋、金塚 東・篠宮正樹・栗林伸一の3人の内科医が集まり、年々増えている生活習慣病を根本的に防止するために活動しよう、と話合いました。3人には下記のような問題意識がありました。

- 1 生活習慣病の芽が子ども達にまでまん延
- 2 染みついた生活習慣をその個人で変えるのは難しい
- 3 医療者と市民の間で、知識や考え方にギャップがある
- 4 誤った健康情報や民間療法が巷にあふれている

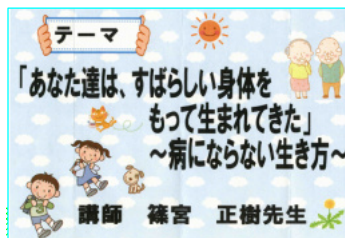
これに対処するためには、市民と医療者がともに協力し合い、幅広い効果的な活動を進めていく必要があります。この趣旨に賛同する多くの市民と医療者により、2005年NPO法人「生活習慣病防止に取り組む市民と医療者の会（愛称：小象の会）」が設立されました（右上千葉日報の報道をご覧ください）。

医師・看護師・保健師・検査技師・薬剤師・栄養士・教員などの専門知識を持つ人達とともに、企業・民間団体や行政などで、法律や文化芸術なども含めて多くの経験を持つ人達が大きな力を発揮しました。このような協力により、当会の活動は豊かなものになりました。

会報・書籍・ホームページなど 講演会の内容や会の活動を、会員や市民に広く伝えるために、会報を年2回第30号まで発行、糖尿病の知識を普及する「小象の糖尿病通信」を8号まで発行、毎年の「市民のための糖尿病教室」で配布。ホームページとブログも開設、小象の会の様々な情報にいつでもアクセスできます。「小象の会」でご検索ください。また、子ども達に分かりやすく親しめる形で、人間の身体の素晴らしさや、健康情報を届けるため、篠宮理事長と小倉理事（童話作家）との共著により、2冊の童話を刊行。これは新聞にも採り挙げられ、2冊とも千葉県課題図書に指定され、全国に普及しました。



フォーラムの開催 市民が知りたいテーマを選び、会の趣旨に賛同する医療者を講師に迎えて年2回の小象フォーラムを、計27回主催。毎回多くの参加者から高い評価を得てきました。



出前講座・講話 役員・会員が直接、小中学校・会社・事業所に出向き、「人間の身体の素晴らしさを知り、自尊感情を高めること」の必要性や、タバコの危険性、糖尿病の知識の普及などをテーマに講演をしました。



ロッテ球場での啓発活動 多くの観客が集まるロッテ球場での啓発は、直接市民とかがわれる活動です。球場でのチラシ配りや簡単な体力測定、医師による健康相談、メインスクリーンでの広報などの活動が実現しました。



千葉日報紙上での連載 2018年10月から、生活習慣病の知識と医療について直接読者に語りかける「小象の 元気!で行こう」の連載を開始、2年間70回の連載で完結。この内容を会員や市民に幅広く届けるため、書籍『小象の 元気!で行こう』として刊行しました。

書籍『小象の 元気!で行こう』は、千葉県医師会などの県内諸医療団体役員・千葉大学医学部4年生全員、全ての千葉県立高等学校・特別支援学校、全ての千葉市立小中学校・特別支援学校・公民館などに寄贈しました。

事務局

役員(50音順)

e-mail naika@2427.jp

電話 043-263-1118

FAX 043-265-8148

一緒に活動しましょう!

- | | | | |
|------|------|-------|------|
| 理事長 | 篠宮正樹 | | |
| 副理事長 | 櫛方絢子 | 栗林伸一 | 中野英昭 |
| 理事 | 内田大学 | 梅宮敏文 | 小倉明 |
| | 高橋信一 | 高柳佐土美 | 田代 淳 |
| | 古市雅雄 | 柳澤葉子 | 田所直子 |
| 監事 | 櫻井義人 | 蛭田 隆 | |
| 顧問 | 金塚 東 | 齋藤 康 | 高橋金雄 |
| | | | 萩原 博 |